

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 30 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01454

研究課題名(和文) ドイツ連邦議会における拒否権発動回避策の分析

研究課題名(英文) Analysis of Measures to avoid veto power in German Bundestag

研究代表者

河崎 健 (KAWASAKI, TAKESHI)

上智大学・外国語学部・教授

研究者番号：20286751

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：連邦議会において不人気政策は如何にして決定されるのか。この問題提起の下、例えば財政再建・福祉国家改革といった、とくに左派系に不人気の政策はドイツ社会民主党シュレーダー政権下で実施された。逆に、シリア難民受け入れという保守側に忌避されそうな政策は、中道右派のキリスト教民主社会同盟メルケル首相の下で実行された。これは、当該不人気政策でもっとも批判的な勢力がイニシアティブを握ることで反対派との分裂を抑えること、党内の反対派、とりわけ連邦参議院内の同一政党の批判勢力を牽制する上で好都合であると考えられる。

本研究では、両党の政治史に関する論文の中でこの点を指摘することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

与党にとっての不人気政策、例えば我が国でいえば、増税や財政再建といったイシューは、与野党対立が激しい場合には、実現が難しい。しかし実際には、いずれの政策も与野党を超えて実施が必須と思われる政策である。選挙で政党の死命が決められる民主主義下で、この不人気政策をいかに実現するのか。ドイツの事例が教えることは、政党は1つではないということ、イデオロギーの相違から競争関係にある政党同士が、暗黙のうちに協力することで国家にとって不可欠な政策を遂行することが可能であるという点であり、わが国の政党政治を考える上で大いに参考になるものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：How are unpopular policies decided in German Congress, Bundestag? Based on this issue, policies that were particularly unpopular among leftists, such as fiscal restructuring and welfare state reform, were implemented under the German Social Democratic Party Schroeder's government. On the other hand, the policy of accepting Syrian refugees, which is likely to be shunned by conservatives, was implemented under the centre-right Christian Democratic/Social Union, Chancellor Angela Merkel. This is advantageous in that the forces most critical of the unpopular policy in question take the initiative, thereby suppressing divisions with the opposition, and in order to keep in check the opposition within the party, especially those critical of the same party in the Federal House of Councilors, Bundesrat. It is thought that. In this study, we were able to point out this point in a paper on the political history of both parties.

研究分野：政治学

キーワード：ドイツ 連邦議会

1. 研究開始当初の背景

連邦議会において不人気政策は如何にして決定されるのか。ほん研究はこのような問題提起を背景にして、例えば財政再建・福祉国家改革といった、とくに左派系に不人気の政策はドイツ社会民主党 (SPD) 首班のシュレーダー政権下で実施されたこと、逆に、シリア難民受け入れという保守側に忌避されそうな政策は、中道右派のキリスト教民主社会同盟 (CDU/CSU) 首班のメルケル首相の下で実行されたことを分析することにした。これは、当該不人気政策でもっとも批判的な勢力がイニシアティブを握ることで反対派との分裂を抑えること、党内の反対派、とりわけ連邦参議院内の同一政党の批判勢力を牽制する上で好都合であると考えられる。本研究では、両党の政治史に関する論文の中でこの点を指摘することができた。

2. 研究の目的

本研究では、(1) 2003 年のアジェンダ 2010 に始まるシュレーダー政権の改革政策の経緯を、統一ドイツにおける同党の歴史を追うことで、政府与党がいかに不人気政策を実施しているのかという点を分析することを目的としている。具体的には、一連の改革法案決定の政治過程において、連邦議会で、野党 CDU/CSU の協力も得られたこと、連邦参議院では、同じ SPD 党内の州グループの反対を抑え込めたこと、理由は、連邦参議院が州政府代表から構成されているため、州首相を始めとする同じ SPD の州政府メンバーは、SPD としては、福祉削減につながる改革案には賛成しがたかったが、州政府としては国家の財政赤字を見過ごすことはできず、結果として党の利益よりも州政府としての責任を優先して、改革案に大きな異議を唱えなかったこと、また連邦参議院で与党州が過半数を握っていなかったことも幸いした、といった点を詳述した。

他方、(2) 2015 年のシリア難民受け入れは、CDU のメルケル首相の個人的なイニシアティブで実現されたのだが、これも激しい政党間対立を引き起こさなかったのは、実施した CDU 自体がもっとも批判的な勢力であったためである。

このように不人気政策の実施は、暗黙のうちで対立関係にある野党の協力が不可欠であるのだが、頻繁に使える手段ではなく、劇薬であるといえる。というのも、自党内で必ずしも歓迎されなかった政策の実施は、最終的には、断行した首相自身の政治生命を断つほどの影響を及ぼしたためである。

アジェンダ 2010 の具体的な法案である一連のハーツ法案、とりわけ失業手当の改革を規定したハーツ 4 は、とりわけ旧東独の市民に不評で、SPD は州議会選挙で連敗、党内から左派が脱党して、旧東独の元共産主義政党・民主社会党 (PDS) と合併して、左派党 (Die Linke) を結成、シュレーダーは、2005 年の連邦議会選挙で敗北して、首相を辞任した。また SPD はこの時以来、低迷期に入り、未だに党勢を回復できていない。

一方、メルケルの難民受け入れも、2015 年末までにおよそ 100 万人ものシリア難民がドイツ国内に殺到することになり、政権の支持率は急落、CDU と姉妹政党 CSU の対立は激化し、メルケルは CDU 党首辞任を宣言した上に、2021 年選挙での首相候補としての再出馬の断念に至っている

3. 研究の方法

まず歴史的経緯を知るために、(1)2003年のAGENDA2010と2015年のシリア難民受け入れの時期について書かれた二次文献を渉猟した。その上で、連邦議会と連邦参議院での法案審議や本会議での討論内容を、議会議事録などを参照して追った。さらに、研究者がすでに作成していた、連邦議会議員と連邦参議院構成員にデータベースを整理して、それぞれの政策に関わった閣僚や議員のプロフィールなどを分析した。

本研究で使用した文献やデータは、インターネットを参照したり購入した分を除くと、主にドイツのフランクフルト国立図書館とベルリン・フンボルト図書館、ベルリン州立図書館で入手した。さらに、ドイツ・バーデンビュルテンベルク州選出の州議会議員、党支部の職員、地方議会議員の他、ベルリンでの識者や研究者の知己のある専門家との懇談やインタビューを通じて、関連する情報の収集に当たった。

4. 研究成果

以上のように、為政者や与党に大きな痛手を与えかねない不人気政策の断行であるが、このような政策は、例えば我が国でいえば、増税や財政再建といった 이슈に該当するかもしれない。与野党対立が激しい場合には、実現が難しい。しかし実際には、いずれの政策も与野党を超えて実施が必須と思われる政策である。選挙で政党の死命が決せられる民主主義下で、この不人気政策をいかに実現するのか。ドイツの事例が教えることは、政党は1つではないということ、イデオロギーの相違から競争関係にある政党同士が、暗黙のうちに協力することで国家にとって不可欠な政策を遂行することが可能であるという点であり、わが国の政党政治を考える上で大いに参考になるものと考えられる。

このような点を含めて、本研究の成果は(1)政権交代が常態化している国家における政党の役割が理解できる。政党政治における政策遂行力は与党によるだけではない。直接の協力関係がなくても、野党の存在が与党の政策実現にとって不可欠ということもあることが判る。(2)ドイツ連邦議会および連邦参議院における政策形成過程の特質を理解することができた。連邦議会内での常任委員会や各会派における部会の役割、連邦参議院の構成などから、拒否権発動の回避がいかに実行されているのかを、記述的に示すことができた。(3)上記のように、日本の政治を考える上で、不人気政策を実行する上で、野党の役割が重要であること、そのためには政権交代がある程度頻発化することで、野党にも政策実行能力があることを示せることが肝要であることが判った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 河崎健	4. 巻 6月号
2. 論文標題 ドイツは対露依存を脱却できるのか - 友にも敵にもなる東の大国との関係再構築が課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 改革者	6. 最初と最後の頁 6,9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎健	4. 巻 10月号
2. 論文標題 ああ、シュレーダー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 改革者	6. 最初と最後の頁 46,46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎健	4. 巻 12月号
2. 論文標題 選挙後の新体制を受けたEUの行方	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 改革者	6. 最初と最後の頁 6,9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎健	4. 巻 12月号
2. 論文標題 2021年ドイツ連邦議会選挙を振り返って	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊・選挙	6. 最初と最後の頁 12,18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎健	4. 巻 3月号
2. 論文標題 ドイツ連邦議会議員報酬の特徴と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生活経済政策	6. 最初と最後の頁 6, 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎健	4. 巻 4月号
2. 論文標題 < 基調講演 > コロナ後の世界と日本の政治	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 改革者	6. 最初と最後の頁 6, 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎健	4. 巻 2月号
2. 論文標題 政党にとって連立政権とは何か ドイツの新連立政権の刷新能力から考える	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 改革者	6. 最初と最後の頁 6, 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎健	4. 巻 10月号
2. 論文標題 首相候補が三人登場したドイツの総選挙	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 改革者	6. 最初と最後の頁 26, 29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎健	4. 巻 6月号
2. 論文標題 特集新型コロナ・ウイルス感染 - 新型コロナ・ウイルスとドイツ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 改革者	6. 最初と最後の頁 22,23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎健	4. 巻 9月号
2. 論文標題 「マンパワー創造社会」の構築で改革中道の結集を 再び政権交代可能な陣営の結集を構想する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 改革者	6. 最初と最後の頁 54,57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎健	4. 巻 1月号
2. 論文標題 統一三十年を迎えたドイツ 東の負債と戦後の見直しを越えて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 改革者	6. 最初と最後の頁 22,25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎健	4. 巻 4月号
2. 論文標題 コロナ後の世界と日本の政治	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 改革者	6. 最初と最後の頁 6,11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎健	4. 巻 1月号
2. 論文標題 ドイツ首相政党に新党首誕生	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 改革者	6. 最初と最後の頁 36,39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎健	4. 巻 8月号
2. 論文標題 一九年欧州議会選とドイツ国内政治	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 改革者	6. 最初と最後の頁 22,25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河崎健	4. 巻 1月号
2. 論文標題 メルケル時代の終わりの始まりか？	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 改革者	6. 最初と最後の頁 6,9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 河崎健
2. 発表標題 ドイツ・シヨルツ政権の現在
3. 学会等名 ソフィア・シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 河崎健
2. 発表標題 既成政党の政権獲得・維持戦略の動向 ドイツの場合
3. 学会等名 日本選挙学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takeshi Kawasaki
2. 発表標題 Die politischen Karrieren der Landesminister und die Rolle der politischen Parteien in Deutschland
3. 学会等名 Kultur-, Sozial- und Bildungswissenschaftliche Fakultät am Institut fuer Sozialwissenschaften an der Humboldt Universitaet zu Berlin
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 K.Aizawa, M.Speich, A.Freimuth, M.Hoch, R.Effinowicz, W.Watanabe, T.Nishiyama, M.Pilz, S.Sakano, P.-J. Alexander, C.Kress, Y.Nishitani, M.Ide, J.Majima, M.Unkel, T.Tsuji, T.Kawasaki, R.Maeda, K.Adachi-Rabe, N.Hiraishi, J.Yamanaka, S.Aoki, K.Mishima, W.Seifert, G.C.Kimura, T.Fujihara, Japanische Kulturinstitut Koeln	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Indicium Verlag	5. 総ページ数 15
3. 書名 Gemeinsame Herausforderungen. Ein aktueller Blick auf den deutsch-japanischen Wissenschaftaustausch anhand von Beiträgen aus den Ringvorlesungen 2021 und 2022,	

1. 著者名 河崎健（編者）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 347
3. 書名 新しいヨーロッパ学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------